

ニワトリヌカカ

市民から「網戸をくぐり抜けてくる虫に吸血されて困っています。」という相談です。検査依頼の標本には、色々な昆虫類が入っていましたが、吸血被害の原因は、ニワトリヌカカでした。ヌカカとは、お米のヌカのように細かい蚊という意味です。画像でも分かるように体長は、1.5ミリメートルに満たない大きさです。また、体の幅は、0.5ミリメートルほどです。網戸の網の間隔は、約1ミリメートルほどですから、たやすく網戸をくぐり抜けられます。

吸血被害

蚊やブユと同じハエ目(双翅目ともいう。)というグループです。雌は、吸血被害を起こします。吻で吸血します。成虫の吸血被害は、7月から8月が最も盛んになるときです。今回の検査依頼も8月8日でした。刺された直後のかゆみより数日経過してからのかゆみが激しいといわれています。

鑑別のポイント

ニワトリヌカカには、翅に独特の模様があります。この模様がヌカカの種類を鑑別する時に非常に重要です。特に外明斑が二つに分かれていることで、近縁種であるイソヌカカ(海岸部で発生する種類)と区別できます。また、受精のうが一個で、球形でないのもニワトリヌカカの特徴の一つです。

受精のう

昆虫の雌には、受精のうと呼ばれる器官があります。雄と交尾の後、雄の精子を蓄えておく器官です。ミツバチの羽化した新女王バチは、巣から飛び出し、10匹ほどの雄バチと交尾をし、500万以上の精子を受精のうに蓄え、その後、交尾することなく有精卵を産卵することができます。

ロイコチトゾーン病の媒介者

ニワトリヌカカは、人を吸血しますが、名前のおり、ニワトリを好んで吸血します。しかも、ニワトリのロイコチトゾーン病(人のマラリアと同じように原虫の仲間)を媒介し、経済的にも損害を与えます。このことから鶏舎では、色々な対策が行われています。その内容は、人の被害への対策の参考になります。

発生源対策

ニワトリヌカカの幼虫は、水田などに生息しています。そのため、広い水田に対しての幼虫駆除は、非常に困難です。むしろ対策は、飛来する成虫を防ぐことに重点が置かれます。

網戸に殺虫剤スプレー

鶏舎の開口部に網戸を設置し、更にもその網戸に殺虫剤を噴霧する方法があります。最近、家庭で使用できる網戸専用の殺虫剤スプレーが売られています。最初、この商品を知ったとき、なぜ虫を防ぐ網戸に殺虫剤スプレーを使用するか、不思議な感じでしたが、今回のニワトリヌカカのような微小昆虫の対策として有効です。

我が家の蚊対策

我が家の洗濯物を干す場所は、家の裏の小さな敷地です。6月ごろから10月ごろまでは、洗濯物を干しに一歩外に出ると、ヒトスジシマカの襲来を受けます。そこで野外用のピレスロイド系殺虫剤を蒸散させる商品を使っています。非常に効果的です。これは、ピレスロイド系殺虫剤には殺虫効果の他に忌避効果があるためです。ニワトリヌカカ対策としても、野外用のピレスロイド系殺虫剤を蒸散させる方法が紹介されています。

野外での対策

衣服に吹き付け、蚊の吸血を防ぐスプレーが売られています。ヌカカ対策としても有効です。ハイキングやキャンプの時にヌカカの被害に会うようでしたら、虫除けスプレーが簡単で手軽な対策です。

